

新任教授セミナー

小児歯科における外科的処置のポイント



福岡歯科大学成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野

教授 尾崎 正雄

略 歴

1981年3月 福岡歯科大学卒業
1981年4月 福岡歯科大学小児歯科学講座入局
1982年4月 福岡歯科大学助手（小児歯科学）
1990年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学（客員助教授）
1996年8月 福岡歯科大学講師（小児歯科学）
1997年4月 福岡医療短期大学助教授（歯科衛生学）
2000年10月 福岡歯科大学准教授（小児歯科学）
2010年11月 福岡歯科大学教授（小児歯科学）
現在に至る

所属学会 日本小児歯科学会認定専門医指導医（日本小児歯科学会理事）
日本小児口腔外科学会認定指導医（日本小児口腔外科学会庶務担当理事）
日本教育歯科医学会
日本VR医学学会

小児における齲蝕は年々軽症化しており、1歳6カ月児や3歳児におけるウ蝕罹患者および平均ウ蝕歯数は大幅に減少している。本学小児歯科に来院される小児患者の疾病構造や臨床内容も変化しており、来院時の主訴も以前とは大分異なってきた。すなわち、不正咬合を主訴とした患者や、過剰歯や埋伏歯を中心とした手術目的で紹介来院される症例が増加している。特に上顎正中埋伏過剰の症例では、本学にデンタルCTが導入されてからは、安全に早期摘出が可能となってきたので、紹介患者が急増している。小児の外科的処置では、まず麻酔、手術などに対する恐怖感を除去する必要がある、患児の十分な協力が必要である。さらに、小児の口腔は小さく、術野の確保が困難な場面での処置や、術者の熟練が必要な場合がある。また、埋伏過剰歯や歯牙腫など近接する後継永久歯への配慮といった問題があり手術前に十分なシミュレーションを行う必要がある。そこで今回私は、小児歯科に来院され外科処置が必要とされる口腔疾患のポイントについてお話する。